

Value Creation & Integration

持 続 的 成 長 に 向 け て

株式会社アスラポート・ダイニング

Investors' Guide 2017

2017年3月期

Management Message



「食のバリューチェーン」構築をさらに強化・推進へ

事業環境及び当期の業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境や企業収益には改善が見られ、緩やかな回復基調にありますが、英国のEU離脱問題や新興国経済の鈍化といった不安定要素が存在し、国内景気は依然として先行き不透明な状態です。外食及び食品生産業界においては、円高により一部輸入食材価格の低下は見られるものの、競争激化や景気の先行き不安による消費者の節約志向の根強さ、さらに人件費関連コストが依然として収益を圧迫するなど、引き続き厳しい経営環境が続いています。こうした環境の中、当社グループでは既存ブランドが堅調に推移したことに加え、2016年3月末に子会社化したどさん子や同年11月に子会社化したドリームコーポレーションが貢献したこと、そして前期に子会社化した九州乳業、茨城乳業が通期で貢献したことなどから、5期連続の増収増益、過去最高益の更新を達成しました。

当期(2016年4月～2017年3月)連結業績につきましては、売上高36,244百万円(前年同期比54.3%増)、営業利益1,078百万円(同32.0%増)、経常利益は922百万円(同27.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は526百万円(同1.2%増)となりました。

経営戦略の進捗

当社グループは、外食事業のみならず食品生産から流通事業まで多層的に事業を構成する「食のバリューチェーン」を構築するべく、「既存ブランドの競争力強化と成長」「ブランド・ポートフォリオの多様化」「海外市場への進出」及び「食品生産事業と六次産業化」の4つの戦略を着実に実行しています。

「既存ブランドの競争力強化と成長」については、当期はラーメン業態やベーカリー業態の店舗が加わったほか、「牛角」が6店舗純増し、期末の店舗数は前期末比279店舗増の713店舗となりました。また、2017年4月1日付でプライム・リンク、とり鉄、レゾナンスダイニング、どさん子の主要販売会社4社を合併し、新生「アスポート」を発足、人材やブランドを有効に機能させ、リブランドやリロケーションを推進し、新しい価値創造を目指します。

「ブランド・ポートフォリオの多様化」については、ラーメン業態及びベーカリー業態への参入に加え、ステーキ業態「リアルステーキ」、熊本ラーメンブランド「おっぺしゃん」の新規出店、トンカツ業態「キ

ムカツ」「ゲンカツ」の運営を開始したほか、昨年11月には持ち帰り寿司大手の小僧寿司社と資本業務提携を行い、寿司業態にも新規参入しています。この他にも、コシノミチコ氏とコラボレートした新しいタイプの寿司バー「Michiko Sushino(ミチコスシノ)」、ベルギー発祥のベーカリーカフェブランド「ル・パン・コティディアン」など、国内外でさらなる展開を推進しています。

「海外市場への進出」については、2015年の英国法人3社の子会社化を皮切りに、2016年3月には、水産物の加工卸を行う米国法人Pacific Paradise Foods、同年9月には食料品・包装材の原材料の輸入販売を営むAtariya Foods Netherlands及び日本食材の仕入・販売を行うAtariya Horecaのオランダ法人2社を子会社化しました。また、2017年4月1日付で欧州地域の子会社を統括するAtariya Foods Limitedを設立し、英国及びEU圏での事業拡大に取り組んでいます。

「食品生産事業と六次産業化」については、九州乳業はヨーグルトや豆乳を中心とした製品開発強化と量販店等への販路拡大を推し進め、また、同社と茨城乳業は共同生産販売体制を構築し、全国規模の事業エリア拡大を進めています。弘乳舎は余剰乳の加工受託事業に加え、グループ外企業のPB商品の開発・販売も積極的に展開し

ております。九州乳業、弘乳舎、茨城乳業などが属する生産部門の売上高が、当社グループ全体の50%を超えるまでとなり、順調に拡大をしています。

当社グループでは、2020年をめどに、国内外で1,000店舗の達成、売上高630億円以上(内、海外事業で全売上高の20%以上となる130億円以上)、営業利益20億円以上の達成を目標としています。昨年4月には、米穀卸し最大手の神明社と第三者割当増資を伴う資本業務提携を、また、アサヒビール社と第三者割当増資を行い、約19億円の資本増強で財務基盤を強化しました。今後、資本業務提携先との具体的な取り組みなどを通して、事業ポートフォリオ拡充と「生産」「流通」「販売」の各事業を有機的に結び付けることにより高い収益性を目指します。また、今まで以上にスピード感を持って企業価値向上に努めて参ります。

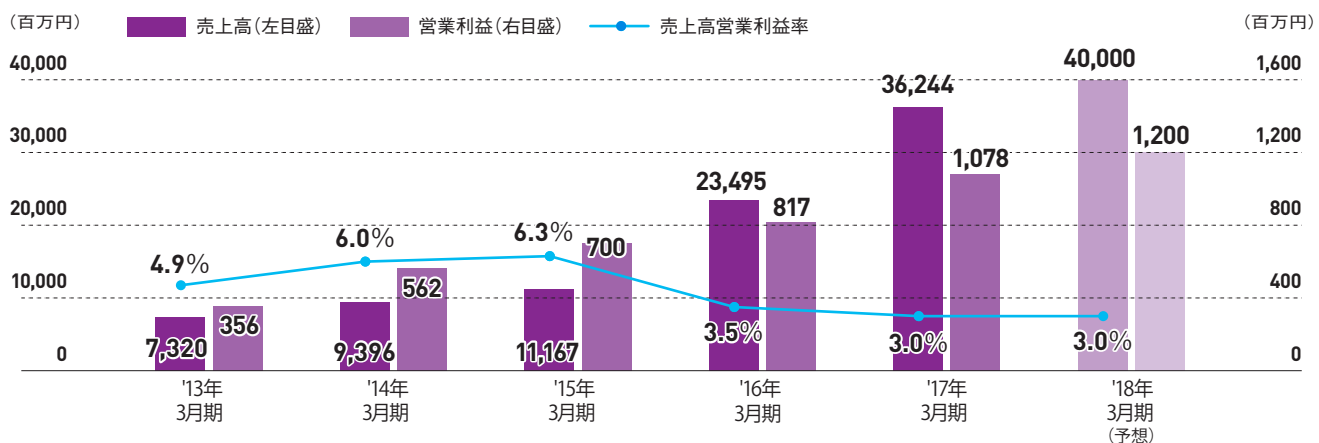
株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き当社グループの今後の成長にご期待いただき、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2017年8月

代表取締役社長 森下将典

代表取締役会長 檜垣周作

通期連結業績 数値推移



※当誌に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約や保証をするものではありません。

販 売

 かぐらや、他 6 (2・4)
  キムカツ 7 (0・7)
  とりでん 61 (57・4)


 牛角 189 (184・5)
 
 おだいどこ 10 (7・3)
 
 とり鉄 56 (44・12)


 ちどり亭 58 (56・2)
 
 浪花屋 鳥造 24 (21・3)


 155 (154・1)

 31 (30・1)

 48 (34・14)

Sushi Bar
Atari-Ya


 鉄板キッチン吟 **1** (0・1)
 
 リアルステーキ、他 **3** (0・3)


 たこやし/うまいもんや
 
 G. GOKUKU

5 (4・1)
 6 (1・5)

 **TACO BELL**
LIVE MÁS 4 (0・4)

**Sushi Bar
Atari-Ya Limited**

トータル
13店

株式会社
アスラポート・
ダイニング

 BAGEL & BAGEL 36 (0 • 36)  CHELSEA CAFE CHELSEA CAFÉ、他 6 (0 • 6)

株式会社フード
スタンド
インターナショナル

株式会社ドリーム
コーポレーション

株式会社

弘乳舎カフェ
2 (0・2)

流通

Diagram illustrating the corporate structure of S.K.Y. Enterprises, showing its subsidiaries and their respective logos:

- Pacific Paradise Foods, Inc.** (Logo: PPF)
- T&S Enterprises (London) Limited** (Logo: T&S)
- Atariya Foods Netherlands B.V.** (Logo: AFN B.V.)
- Atariya Horeca B.V.** (Logo: AH B.V.)
- S.K.Y. Enterprise UK Limited** (Logo: S.K.Y.)
- Pacific Paradise Foods, Inc.** (Logo: PPF)

生産

Diagram illustrating the five member companies of the Dairy Industry Association of Kyushu:

- 弘乳舎 (Hirurusha)
- 株式会社弘乳舎 (Kabushiki Kaisha Hirurusha)
- 茨城乳業株式会社 (Ibaraki Ryougyo Kabushiki Kaisha)
- 株式会社TOMONI ゆめ牧舎 (Kabushiki Kaisha TOMONI Yume Bokusha)
- 九州乳業株式会社 (Kyushu Ryougyo Kabushiki Kaisha)

PAGE 03 アスラポート ビジネスモデル

新たなビジネスモデルで「食のバリューチェーン」を促進

当社が目指す「食のバリューチェーン」とは、一次産品のもつバリュー（付加価値）が、製造メーカーの加工技術や商品開発を経て、流通事業者のリテール網へのアクセスを通じ、幅広いリテール（外食・小売）網に提供されて最終消費者の評価が付加されることにより、連鎖的に価値を高めていくことです。生産・流通・販売の循環的チェーンを通じてバリューを高めていくビジネスモデルの構築を目指しています。

1 生産・加工し

生産事業

乳牛の肥育から乳製品製造・販売まで一貫し、良質な生乳生産・乳製品加工で食品展開をしています。業務用乳製品では資本業務提携先と付加価値の高い商品開発も行い、今期は売上規模もセグメントにおいて最大となりました。



2 流通網で拡大し

流通事業

オランダ2法人を加え、海外子会社5社となりました。資本業務提携先のジャパン・フード&リカー・アライアンス株が取り扱う日本の調味料・酒類を当社グループの海外拠点を通じて流通、逆に同社グループが展開する欧州他海外からの食材やワインを当社グループの国内販売拠点を通じて流通させる「双方向の商流プラットフォーム構築」を目指します。



品質が高くブランド力がある
日本の食材を

販売事業

「牛角」の堅調な出店と「どさん子」ラーメンや「GOKOKU」カフェの国内外への出店、「BAGEL & BAGEL」「リアルステーキ」など新たなブランド展開などで店舗数は713店舗まで増大しています。来期もますますブランド・ポートフォリオの多様化に向けて加速してまいります。



3 国内外に提供する

消費者の方々からの評価を通じて、
さらなる付加価値の創造を
グループ全体で図る

2020年度

売上高 630億円以上
営業利益 20億円以上

店舗数：国内外合計で**1,000店舗**へ
海外事業売上：**130億円**へ（全売上高の20%以上）

4つの戦略で事業規模を拡充

1 既存ブランドの競争力強化と成長

主要販売会社4社合併による業務効率化とブランド力強化

- ・2017年4月、株式会社プライム・リンク、株式会社とり鉄、レゾナンスダイニング株式会社、株式会社どさん子の主要販売会社4社が合併し、株式会社アスラポートを発足（⇒5ページ参照）

新規・既存ブランドの出店拡大

- ・2016年3月末に子会社化した株式会社どさん子の「どさん子」「みそ膳」などラーメン業態234店舗が増加
- ・2016年11月に子会社化した株式会社ドリームコーポレーションのベーグル業態など42店舗が増加
- ・既存ブランド「牛角」も堅調に6店舗純増

業界平均を上回る売上高で推移

- ・居酒屋業態の国内市場が縮小傾向（業界前年売上高比92.8%）にあるなか、当社グループの居酒屋業態売上高は前期比98.6%
- ・既存店売上は堅調な「牛角」を中心に、前期比101.6%で業界平均94.3%を上回る。結果新ブランドも好調に展開

2 ブランド・ポートフォリオの多様化

ラーメン業態への進出

- ・半世紀以上の歴史ある「どさん子ラーメン」ブランドでは、若年層をターゲットに「どさん子リブランドプロジェクト」を開始。「どさん子パリ店」「どさん子 West L.A.店」など海外へも進出

ベーカリー業態の拡充

- ・日本最大級のベーグル専門ブランド「BAGEL & BAGEL」を擁する株式会社ドリームコーポレーション子会社化により、ベーグル専門店やカフェ&ダイニング「Chelsea Café」など直営店運営事業やベーグル卸売、通販事業に進出

肉業態（ステーキ・トンカツ）の拡充

- ・トンカツ業態「キムカツ」「ゲンカツ」を4店舗直営化
- ・高級ステーキハウス「37Steakhouse & Bar」を展開する株式会社スティルフーズの協力を得て、ステーキ業態「リアルステーキ」を開業

3 海外市場への進出

オランダ法人2社を子会社化

- ・2016年9月にオランダのAtariya Horeca B.V.とAtariya Foods Netherlands B.V.を子会社化し、EU圏、英国、ポーランドなど欧州市場や米国市場の流通拠点が充実

統括会社を英国に設立

- ・経理財務・債権管理機能の統合をはじめとする業務や経営システムを統合し効率的な運営を図るため、統括会社Atariya Foods Limitedを英国・ロンドンに設立

タイ・バンコクへ進出

- ・スイーツ業態「GOKOKU」初のカフェ業態「GOKOKU CAFÉ」を2016年11月、タイ・バンコクに出店し、2017年5月には2号店をオープン

4 食品生産事業と六次産業化の推進

好調な弘乳舎がプライベートブランド展開を推進

- ・株式会社弘乳舎は、「牛角」へプライベートブランド（PB）のアイスクリームを提供。またグループ外企業のPB商品開発・販売も積極的に展開

乳製品製造販売会社2社が共同生産販売体制へ

- ・茨城乳業株式会社と九州乳業株式会社は共同生産販売体制を構築し、事業エリアを全国規模に拡大
- ・九州乳業株式会社はヨーグルトや豆乳を中心とした製品開発を行い、販路をディスカウントストアに拡げて収益基盤を着実に拡充

New!

主要販売子会社4社合併により 新生「株アスラポート」発足

2017年4月1日、当社連結子会社である(株)プライム・リンク、(株)とり鉄、レゾナンスダイニング(株)、(株)どさん子の4社が合併し、新会社「(株)アスラポート」として発足しました。新会社は4社のブランドを集約し、焼肉店、焼き鳥業態などの居酒屋、ラーメン店の直営・FC事業における人材やロケーションの効率化による生産性向上を進めます。またブランド開発など、新たな価値創造に向けた取り組みを行うことで、さらなる成長を目指します。

株式会社プライム・リンク

株式会社とり鉄

レゾナンスダイニング株式会社

株式会社どさん子



Asrapport

株式会社アスラポート



新ブランドのベーカリー業態、 肉業態が充実



2016年11月、(株)ドリームコーポレーションを子会社化しました。これにより、同社が運営する日本最大級のベーグル専門ブランド「BAGEL & BAGEL」42店舗をはじめ、カフェ・ダイニング「Chelsea Café」を首都圏で展開、さらにベーグルの卸売・通販事業などで業態を拡充していきます。

肉業態では、首都圏を中心に高級ステーキハウス「37 Steakhouse & Bar」を展開する(株)スティルフーズとの業務提携により、ステーキレストランブランド「リアルステーキ」を立ち上げ、大阪府堺市に1号店を開業しました。また厳選された国産豚ロース肉を使用した独自製法が人気のトンカツ業態「キムカツ」「ゲンカツ」を新たに4店舗直営化して7店舗とし、さらなる拡充を目指します。



「小僧寿し」株式取得で地域密着型サービスの プラットフォーム構築へ



2016年11月、「小僧寿し」や「茶月」等持ち帰り寿司ブランドを展開する(株)小僧寿しの株式取得により、資本業務提携を行い寿司業態への参入を果たしました。今後は、同社が運営する全国の店舗や厨房、デリバリー機能を活用した付加価値の高い商品提供が可能になります。当社グループの多様なブランド提供や弁当事業、宅配事業などさまざまな販売事業の成長戦略構築に向けた取り組みを進行しています。

生産事業 流通事業 販売事業 業務提携先/その他



ロンドンを中心に本格的寿司店
Sushi Bar Atari-Yaを運営



ポーランドに和食材の製造・販売を手がける
Japan Traditionals Sp.z.o.o.設立



ファッションデザイナーのミチコシノ氏と
コラボレートした寿司バー
「Michiko Sushino」

英国の生産・流通拠点である
水産物加工卸会社
T&S Enterprises(London)Limited



老舗ラーメンブランド「どさん子」
欧州へ展開



英国とドイツに拠点をもち和食材の総合卸
S.K.Y. Enterprise UK Limited



オランダで事業展開
Atariya Horeca B.V.
Atariya Foods Netherlands B.V.



ベルギーのベーカリーカフェブランド
「ル・パン・コティディアン」
国内展開へ



MD(共同商品開発、仕入れ)
機能充実、国内外販路拡大など
多層的シナジーを見込む



当社グループの洋菓子ブランド
「GOKOKU」カフェ業態で
タイにオープン



豪州産ブランド牛肉を使用した
「リアルステーキ」立ち上げ



米国から人気のメキシカン・ファストフード
「タコベル」日本に展開



米国の流通販売拠点として
水産加工卸を行う
Pacific Paradise Foods, Inc.

アスラポートのグローバル戦略 EU、英国、ポーランドなど 欧州市場や米国市場の拠点充実へ

アスラポート・ダイニングでは、欧州・北米・豪州を中心に、世界の販売、流通、生産拠点に基軸を置いた流通網を徐々に拡大しています。2016年9月にオランダ・アムステルダムで日本食材や飲料の販売店を運営するAtariya Horeca B.V. 及び、日本からドライ製品や冷凍食品、包装容器などを輸入し卸売や小売事業を展開するAtariya Foods Netherlands B.V. を子会社化しました。また英国の生産・流通拠点T&S Enterprises (London) Limitedは周辺国への業務拡大が見込めるため、同年11月にフランスに新たな子会社ATARIYA FRANCE S.A. を立ち上げました。米国の流通販売拠点であり生鮮食材の加工卸事業を展開するPacific Paradise Foods, Inc. も好調に成長を続けています。

アジアにおいては、「GOKOKU」カフェ業態をタイ・バンコクへ2店舗出店しております。

こうした流通・販売・生産の拠点をつなげ、点から線に、線から面へと拡大していくことで、アウトバウンドとインバウンドを組み合わせた「双方向の商流プラットフォームの構築」を進めてまいります。

PAGE 07 経営成果と財務分析

当連結会計年度の外食及び食品生産業界では、円高により一部輸入食材価格が低下したものの、競争激化や人件費関連コストの上昇など、引き続き厳しい状況が続きました。

当社グループでは、引き続き食品・外食関連企業の子会社化や資本業務提携を積極的に行い、事業ポートフォリオの拡充・強化を推し進めました。

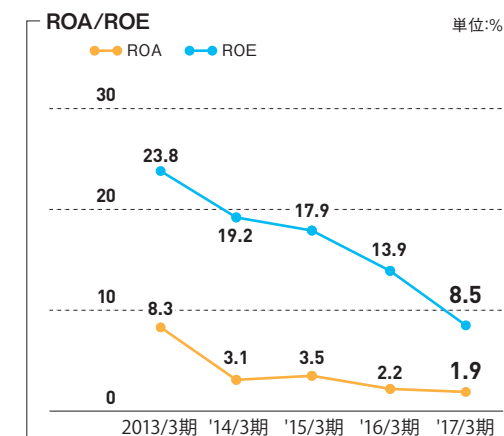
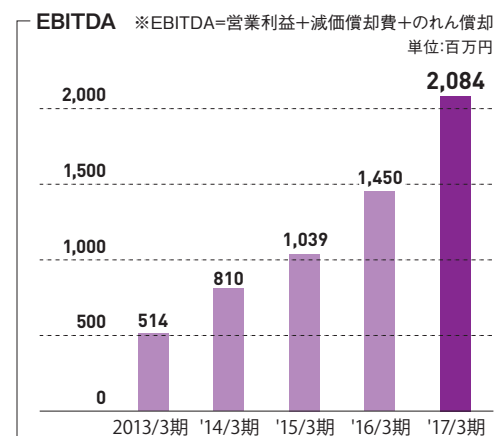
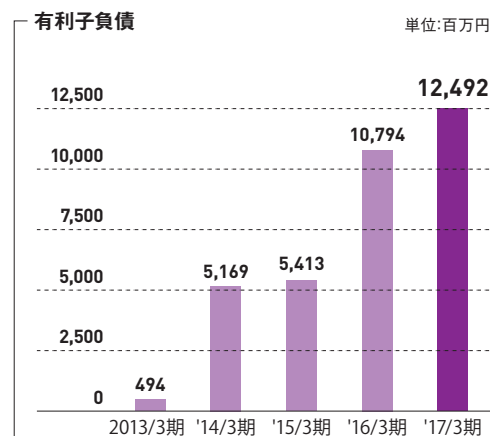
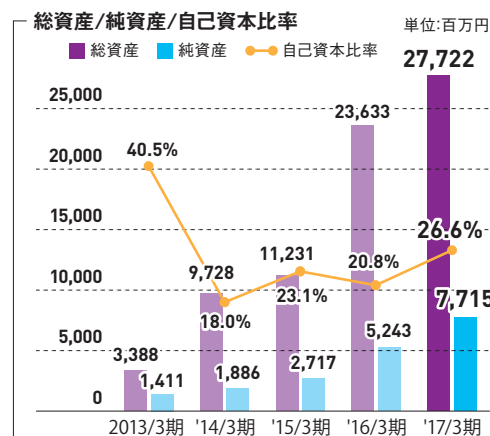
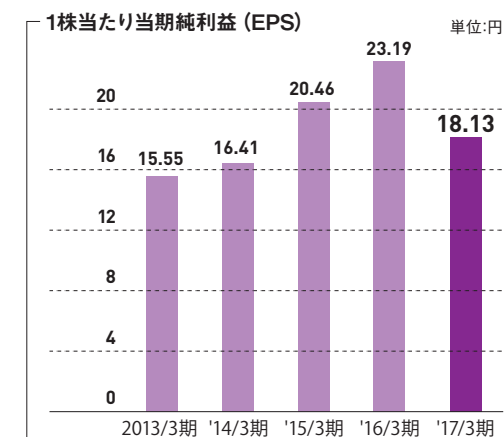
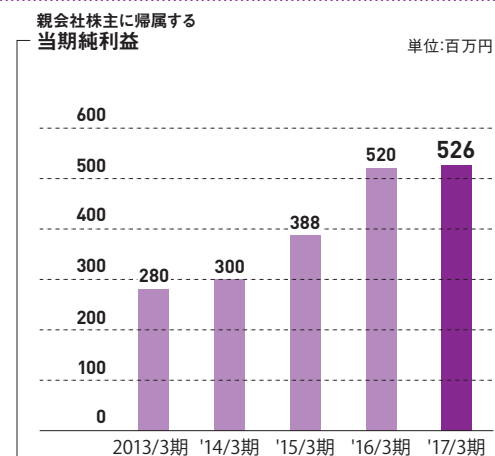
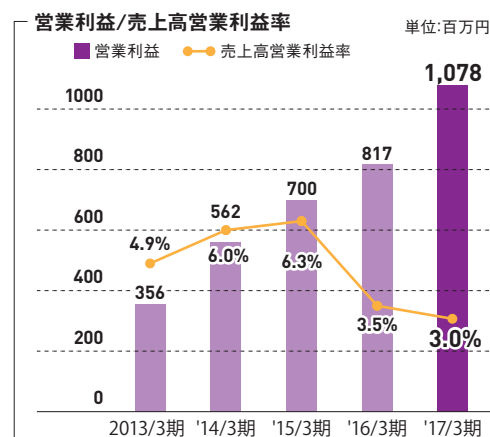
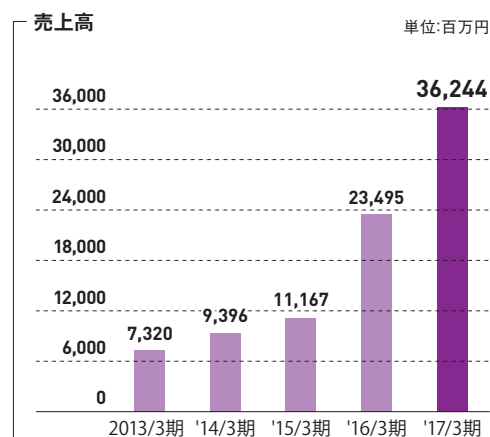
その結果、連結売上高は36,244百万円(前連結会計年度比54.3%増)、連結営業利益は1,078百万円(同32.0%増)、連結経常利益は922百万円(同27.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は526百万円(同1.2%増)となりました。

当連結会計年度末における総資産は27,722百万円(前連結会計年度末比4,089百万円増)、負債

は20,006百万円(同1,616百万円増)となりました。純資産は、昨年4月実行の第三者割当増資及び新株予約権の行使による株式の発行等により、7,715百万円(同2,472百万円増)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは1,207百万円の収入となり、投資活動によるキャッシュ・フローは2,988百万円の支出となりました。財務

活動によるキャッシュ・フローが2,540百万円の収入となり、これらの結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、6,223百万円(同738百万円増)となりました。



連結貸借対照表 (千円)					
	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
現金及び預金	659,597	2,650,084	3,326,845	5,507,158	6,305,971
受取手形及び売掛金	634,974	1,078,951	1,187,470	3,719,263	3,840,460
棚卸資産	71,549	450,442	463,117	1,365,685	1,545,947
貸倒引当金	△53,231	△14,477	△17,213	△137,313	△76,747
その他	225,431	774,307	954,434	1,686,727	1,726,702
流動資産	1,538,320	4,939,307	5,914,653	12,141,523	13,342,335
有形固定資産	254,755	2,139,970	2,107,131	5,655,556	6,496,967
無形固定資産	293,121	1,659,310	1,855,083	3,885,813	3,814,156
投資その他の資産	1,302,751	989,775	1,354,919	1,950,231	4,068,802
固定資産	1,850,627	4,789,055	5,317,134	11,491,601	14,379,926
資産合計	3,388,948	9,728,362	11,231,788	23,633,125	27,722,261
支払手形及び買掛金	391,862	649,354	813,528	2,736,312	2,754,801
短期借入金	394,130	608,600	52,470	2,122,453	3,063,880
1年以内返済予定の長期借入金	—	982,323	1,596,978	2,710,375	3,305,634
その他	513,908	1,032,818	1,183,272	2,382,624	2,353,719
流動負債	1,299,900	3,273,095	3,646,248	9,951,767	11,478,037
社債	70,000	122,500	193,500	60,000	—
新株予約権付社債	—	75,000	—	—	—
長期借入金	—	3,306,084	3,570,899	5,901,600	6,123,300
その他	607,163	1,065,191	1,103,280	2,476,105	2,404,978
固定負債	677,163	4,568,775	4,867,679	8,437,706	8,528,279
負債合計	1,977,063	7,841,870	8,513,927	18,389,473	20,006,316
資本金	700,888	741,591	965,995	1,902,254	2,910,363
資本剰余金	659,185	699,888	924,292	1,861,590	2,881,267
利益剰余金	14,183	314,831	703,743	1,224,367	1,751,314
自己株式	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428	△1,428
株主資本合計	1,372,829	1,754,882	2,592,603	4,986,784	7,541,517
その他の包括利益累計額合計	△477	846	3,390	△72,224	△170,004
新株予約権	39,532	45,741	23,833	4,522	6,680
非支配株主持分	—	85,021	98,034	324,568	337,751
純資産合計	1,411,884	1,886,491	2,717,860	5,243,651	7,715,945
負債純資産合計	3,388,948	9,728,362	11,231,788	23,633,125	27,722,261

連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (千円)					
	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
売上高	7,320,288	9,396,404	11,167,069	23,495,338	36,244,906
売上原価	3,887,496	5,597,148	7,150,686	16,797,926	25,700,228
売上総利益	3,432,791	3,799,256	4,016,382	6,697,411	10,544,677
販売費及び一般管理費	3,076,154	3,236,574	3,315,770	5,880,085	9,465,699
営業利益	356,637	562,682	700,612	817,325	1,078,978
営業外収益	42,412	34,540	41,078	101,073	178,097
営業外費用	38,592	136,265	119,051	193,995	334,816
経常利益	360,457	460,957	622,639	724,403	922,260
特別利益	6,219	28,364	121,354	251,535	342,394
特別損失	22,620	54,104	66,595	72,816	192,036
税金等調整前当期純利益	344,055	435,217	677,397	903,122	1,072,618
法人税等	63,723	128,152	275,472	372,866	467,531
非支配株主に帰属する当期純利益	—	6,417	13,012	9,632	78,140
親会社株主に帰属する当期純利益	280,332	300,648	388,912	520,624	526,946
非支配株主損益調整前当期純利益	280,332	307,065	401,924	530,256	605,087
その他の包括利益	△143	1,323	2,544	△75,614	△97,779
包括利益	280,189	308,388	404,468	454,641	507,307
親会社株主に係る包括利益	280,189	301,971	391,456	444,927	429,166
非支配株主に係る包括利益	—	6,417	13,012	9,714	78,140

連結キャッシュ・フロー計算書 (千円)					
	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	502,088	1,168,899	796,330	808,248	1,207,859
投資活動によるキャッシュ・フロー	△585,696	△2,445,262	△883,627	△2,577,376	△2,988,396
財務活動によるキャッシュ・フロー	232,405	3,242,653	788,402	3,923,561	2,540,696
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	4,194	△2,395	1,923	△22,044
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	148,797	1,970,486	698,710	2,156,356	738,114
現金及び現金同等物の期首残高	510,800	659,597	2,630,084	3,328,794	5,485,150
現金及び現金同等物の期末残高	659,597	2,630,084	3,328,794	5,485,150	6,223,265

主要な経営指標					
	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3
店舗数	345	347	428	434	713
EBITDA(百万円)	514	810	1,039	1,450	2,084
有利子負債額(百万円)	494	5,169	5,413	10,794	12,492
D/E レシオ(倍)	0.4	3.0	2.2	1.6	1.7
自己資本比率(%)	40.5	18.0	23.1	20.8	26.6
ROA(%)	8.3	3.1	3.5	2.2	1.9
ROE(%)	23.8	19.2	17.9	13.9	8.5
EPS(円)	15.55	16.41	20.46	23.19	18.13
BPS(円)	75.21	94.64	128.36	197.56	246.64

沿革

1995年9月

飲食ビジネスの店舗運営ノウハウの蓄積を目的として「株式会社ベンチャー・リンク」の子会社として「株式会社プライム・リンク」を設立



1999年12月

「株式会社プライム・リンク」が、炭火焼肉酒家「牛角」のエリアフランチャイズ本部事業の展開を開始

2001年11月

「株式会社プライム・リンク」が、大阪証券取引所ナスダック・ジャパン市場(現:東京証券取引所JASDAQ)に株式を上場

2007年1月

「株式会社プライム・リンク」からの株式移転により「株式会社アスラポート・ダイニング」を設立
「株式会社アスラポート・ダイニング」が大阪証券取引所ヘラクレス・スタンダード市場(現:東京証券取引所JASDAQ)に株式を上場し「株式会社プライム・リンク」が「株式会社アスラポート・ダイニング」の連結子会社となる

2007年8月

「株式会社とり鉄」が連結子会社となる



2010年2月

「株式会社ゲンジフーズ」の全保有株式を譲渡

2000年9月

「株式会社プライム・リンク」が、「とりでん」のエリアフランチャイズ本部事業の展開を開始



2009年3月

「HSIグローバル株式会社」を引受先に第三者割当増資を実施

2009年11月

「株式会社フーディウム・インターナショナル」の全保有株式を譲渡

2013年9月

「株式会社弘乳舎」が連結子会社となる



2013年12月

「株式会社フードスタンドインターナショナル」が事業譲受により、洋菓子製造販売「GOKOKU(ゴク)」の運営を開始



2016年3月

「Pacific Paradise Foods, Inc.」(米国)を連結子会社化
「株式会社DSKグループ」を連結子会社化





2016年9月

「Showa Boeki(Europe)B.V. (現:Atariya Foods Netherlands B.V.)」及び「Aki horeca B.V.(現:Atariya horeca B.V.)」を連結子会社化

2016年11月

「株式会社ドリームコーポレーション」を連結子会社化
「株式会社小僧寿し」と資本業務提携

2017年4月

海外事業を統括する持株会社Atariya Foods Limited(AFL)を設立し、英国法人3社がAFLの子会社となる

2017年4月

連結子会社間での吸収合併により、新会社「株式会社アスラポート」設立。



2012年1月

「株式会社フードスタンドインターナショナル」設立



2015年4月

「茨城乳業株式会社」が連結子会社となる



「Taco Bell社」とフランチャイズ契約を締結し「Taco Bell」日本1号店を渋谷に開店

2015年5月

「T&S Enterprises (London) Limited, S.K.Y. Enterprise UK Limited 及び Sushi Bar Atari-Ya Limited」の英国法人3社が連結子会社となる






2015年8月

「株式会社TOMONIゆめ牧舎」を連結子会社化



2015年10月

「九州乳業株式会社」を連結子会社化



2015年12月

「ル・パン・コティディアン」の国内独占ストアライセンスを取得



商号	株式会社アスラポート・ダイニング Asrapport Dining Co., Ltd. 
事業設立	2007年1月12日
資本金	2,910百万円
上場取引所	株式会社東京証券取引所 JASDAQ
事業所	東京都品川区西五反田一丁目3番8号 五反田御幸ビル3階
事業内容	外食フランチャイズ本部及び店舗の運営、 食品の製造・販売及び流通
HP	http://www.asrapport-dining.com/

代表取締役社長	森下 将典
代表取締役会長	檜垣 周作
取締役	小林 剛
取締役	齊藤 隆光
取締役(社外)	宇野 友三郎
常勤監査役(社外)	大野 千幸
監査役	森本 晃一
監査役(社外)	阿部 夏朗
監査役(社外)	浅川 威

コーポレート・ガバナンス

① 企業統治の体制の概要

当社は、持株会社として当社グループの中心に位置し、グループ全体の戦略決定、経営管理及び資本政策の決定等を行う機能を有します。これに基づき各事業会社が業務を執行するという体制をとることで、経営の決定及び管理機能と執行機能を分離し、経営責任の明確化と業務執行の迅速化、意思決定の透明性の向上及びコンプライアンスの強化を図っております。

また、当社は監査役設置会社としており、取締役会と監査役会により経営方針の決定、業務執行の管理監督及び監査を行っております。

取締役会は、取締役5名で構成され、うち1名は社外取締役が在任しております。原則月1回開催し、経営方針等の意思決定及びグループ会社の業務執行の管理を行っております。また、取締役の任期は1年としております。監査役会は、4名の監査役で構成され、うち3名は社外監査役が在任しております。監査役は毎月1回の取締役会に出席し取締役会の業務執行に対する監督を行うほか、毎月1回監査役会を開催し、監査の重要事項に関わる協議を行っております。

今般、東京証券取引所が制定したコーポレートガバナンス・コードについては、その各基本原則を、すべて実施しております。

② 社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役1名、社外監査役3名を選任しております。当社の社外取締役及び社外監査役は、当社とは一切の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役の宇野友三郎氏については、食品業界において経営に携わってきた豊富な経験と幅広い知識から、経営に関する有効な助言を期待し選任しております。社外監査役の大野千幸氏については、金融及びコーポレートファイナンスに関する知識と企業活動に関する豊富な見識からの経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。なお、大野千幸氏はその他の関係会社である阪神酒販株式会社の監査役を兼任しております。

社外監査役の阿部夏朗氏については、企業経営者として豊富な経験から経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。同じく社外監査役の浅川威氏は、シカゴ大学経営大学院修士課程を修了した企業経営者であり、企業経営者及びMBA資格保有者としての豊富な経験、幅広い知見を有しており、経営全般の監視と有効な助言を期待し選任しております。

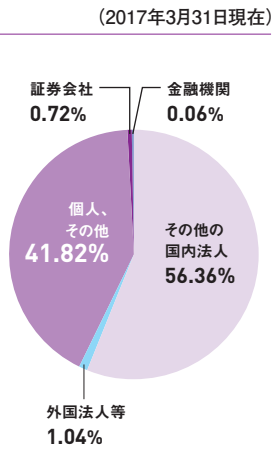
なお、宇野友三郎氏、阿部夏朗氏及び浅川威氏については、独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準または方針はありませんが、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考に、一般株主と利益相反を生じる恐れがないことを基本的な考え方として選任しております。

株式情報

(2017年3月31日現在)	
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	29,890,439株
株主数	13,557名
自己株式	2,400株
発行済株式総数に対する所有株式数の割合	0.01%

所有者別株式分布状況



大株主の状況

(2017年3月31日現在)		
氏名又は名称	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
HSIグローバル株式会社	10,643,467	35.61
株式会社神明	2,926,000	9.79
アサヒビール株式会社	1,433,000	4.79
株式会社田中文信商店	1,169,724	3.91
鈴木 成和	913,242	3.05
川上 統一	411,160	1.37
檜垣 周作	350,000	1.17
オリエントビルデロップメント6号株式会社	222,786	0.74
THE BANK OF NEW YORK —JASDECNON—TREATY ACCOUNT	210,975	0.70
ワイエスフード株式会社	199,300	0.66
合計	18,479,654	61.78

株価／出来高

